

令和4年度 学校経営計画・学校評価シート

【高知県の教育の基本理念】 (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたき子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	【取組の方向性】 (6つの基本方針) ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 (6つの基本方針に関わる長期的な取組) ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進	【学校像】 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りを持ち、やりがいを感じる学校	【目指すべき姿】 (知)自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身につけた児童生徒 (徳)意欲・協働・協力 ○人や環境と積極的に関わり、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちを協調・協力しようとする児童生徒 (体)健康・体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的な生活習慣を身につけた児童生徒	【目次】 1. 学校像 2. 目指すべき姿 3. 概要 4. 現況	(1) 学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2) 卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3) 教員の専門性の向上と指導力の育成 (4) 児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5) 特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6) 学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進
		【児童生徒像】	【概要】	【現況】	

【重点取組項目】 (評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見出しのポイント【A】	
1 教育課程の改善	主体的、対話的で深い学びの観点での授業改善と学習評価を教育課程の改善につなげ、一人一人に応じた教育課程を編成する。【R2年度～3年目迅速】	【現状・課題】 ・学習指導要領に沿った3つの柱による目標設定や資質・能力の考え方ができるようにしていく。(教務・研究が協力して) ・カリマネ委員会で話し合われた内容について、土佐希向上委員会でも検討し、単元計画を作成できる時間を設定し、全員が作成できるようにした。 ・授業のPDCAサイクルが行えるようになりつつある。 ・公開授業を行い、振り返りの方を全校で統一し、授業改善につなげることができた。授業事例の蓄積も進んでいる。 ◆観点別評価については今後も研修を行い深める必要がある。 ◆教育課程については、毎年PDCAサイクルを行い検討し、改善する必要がある。 ◆知的1段階の目標・内容を目標とする児童生徒の3つの柱での目標設定を行っているが、研修等を通して専門家のアドバイスが必要である。 【目標】 ①学習評価の理解を深め、教育課程の改善につなげる。 ②主対の視点での授業づくり、授業改善を進める。 ③本校分校合同カリマネ委員会の課題をうけ、教育課程実施上の課題改善の検討を行う。	①学習評価の理解を深め、教育課程の改善につなげる。 ・年間を通して、研究日を設定を行い、計画的に研究を進めていく。(教務・研究が協力して) ・単元計画を作成。公開授業から教育課程の改善点を洗い出し、児童生徒に合った教育課程を作成する。(教育課程のPDCAサイクル) ・次年度の教育課程の改善・充実につなげるための教育課程振り返りシートを活用する。(教務) ・資質・能力の3つの柱による目標設定及び観点別評価の推進を行う。 ・昨年度作成した「目標設定ガイドブック」を参考にしながら、ガイドブックの内容も改善・充実させていく。 ②主対の視点での授業づくり、授業改善を進める。 ・年度当初に単元計画の内容・活用方法の説明を行い、各自が単元計画を活用し、授業改善のPDCAサイクルを行えるようにする。(研究・教務・各学部) ③本校分校合同カリマネ委員会の課題をうけ、教育課程実施上の課題改善の検討を行う。 ・教育課程研究集会の企画・運営を行う。(研究・教務・各学部) ・3校カリマネ委員会が出された課題について、校内カリマネ委員会(土佐希向上委員会)で検討する。(教務、研究、学部主事、管理職)	①2月2日の研究日を設定し、教務・研究部が中心となり研修を行っている。 ①②1学期に全教員が1回目の公開授業を設定した。感染症等により実施できなかった教員もいたが、実施準備は整っていた。 ①③育成すべき資質・能力を踏まえた目標設定を行い、単元計画を作成し、主体的な視点をもって全教員による公開授業を実施した。実施後は授業改善シートをもとに各クラスでPDCAを意識した授業改善に向けての協議を行った。 ①④単元計画について、4月当初から研修を行い、毎月単元計画作成時間と1回、学部での読み合わせを1回の単元計画作成に向けての研修を行う予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。 ①⑤今年度教育課程研究集会の担当として、今年度教育課程研究集会に向けて土佐希向上委員会を実施した。研究部を中心に企画・運営や協議内容等について検討を行った。3校カリマネ委員会では、十分な提案ができていない部分もあつた。 ①⑥単元計画について、4月当初から研修を行い、毎月単元計画作成時間と1回、学部での読み合わせを1回の単元計画作成に向けての研修を行う予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。	①2月2日の研究日を設定し、教務・研究部が中心となり研修を行っている。 ①②1学期に全教員が1回目の公開授業を設定した。感染症等により実施できなかった教員もいたが、実施準備は整っていた。 ①③育成すべき資質・能力を踏まえた目標設定を行い、単元計画を作成し、主体的な視点をもって全教員による公開授業を実施した。実施後は授業改善シートをもとに各クラスでPDCAを意識した授業改善に向けての協議を行った。 ①④単元計画について、4月当初から研修を行い、毎月単元計画作成時間と1回、学部での読み合わせを1回の単元計画作成に向けての研修を行う予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。 ①⑤今年度教育課程研究集会の担当として、今年度教育課程研究集会に向けて土佐希向上委員会を実施した。研究部を中心に企画・運営や協議内容等について検討を行った。3校カリマネ委員会では、十分な提案ができていない部分もあつた。 ①⑥単元計画について、4月当初から研修を行い、毎月単元計画作成時間と1回、学部での読み合わせを1回の単元計画作成に向けての研修を行う予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。	①教育課程改善シートについて、土佐希向上委員会で作成した。単元計画や公開授業の反省をもとに各学部で児童生徒個々の教育課程について検討し、次年度へ生かすよう準備をしている。 ②単元計画をガイドブックを活用し、目標設定や学習評価の充実など、今後も事例を積み重ねていく内容の検討を行っている。 ③2学期に公開した授業の反省や気づきをもとに2サイクル目の授業実践を行い、1学期に公開授業が行えなかった教員については、2学期に公開授業を実施する。 ④2学期の授業実践、保護者懇話会等で得た情報をもとに個別の指導計画を作成する予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。 ⑤単元計画について、2学期以降、作成時間や話し合わせ時間を確保し、月2回の単元計画作成時間を1回にまとめることにより、1学期に公開授業の向上を目指す。(1回:1回:1回:話し合い) ⑥「目標設定ガイドブック」について、今後も活用、検証、改善を重ねていく。 ⑦土佐希向上委員会を実施し、教育課程研究集会の意見集約を行う。3校カリマネ委員会にて、今後の検討事項を共有し、次年度の担当に引き継ぐ。	■教育課程の改善 【回答数 14名】 ①そう思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④思わない ①100% ・学習評価について ①100% ・授業改善について ①85.7% ②7.1% ③0.0% ④7.1% ・コミュニケーション能力の育成 ①71.4% ②14.3% ③0.0% ④14.3%	■教育課程改善シートを活用しながら児童生徒個々の教科の時間数について検討を続け、教育課程の改善を図る。 ○目標設定ガイドブックについては、今後も協議を各学部で行った。1回目の公開授業後の協議を経て授業改善を行い、2回目の授業を協議した。 ②単元計画作成時間を月2回(1回:1回:1回:1回)に検討し、作成技術の向上を図った。単元計画の作成は定着してきた。 ③若草3校合同でのカリマネ委員会と土佐希向上委員会にて教育課程研究集会の企画・運営や教育課程の改善に係る協議を実施した。今年度企画担当であった各校との連絡調整がうまくいっていた点があつた。 ■教育課程の改善 【回答数 19名】 ①そう思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④思わない ・学習評価について ①22.2% ②7.8% ③0.0% ・授業改善について ①27.8% ②72.2% ③0.0% ・コミュニケーション能力の育成 ①68.4% ②31.6% ③0.0%	○教育課程改善シート ○単元計画の作成はもとより、年間指導計画の充実を目指し、今後も土佐希向上委員会等で検討していく必要がある。 ○引き続き単元計画をもとに公開授業を行い、授業改善(PDCAの2サイクル)を行う。 ○教育課程等に関する諸問題について、若草3校カリマネ委員会や土佐希向上委員会において検討し、課題解決につなげる。
	2 自立活動の指導の充実	「目標設定シート」を作成し、自立活動の指導目標、内容、場面を明らかにし、実態に即した指導・支援の充実につなげる。 ・学期ごとに学級で指導内容の検討を行い、実態に即した指導を行うことができた。 ・主体的に自立活動の指導の充実を図る。 ◆観点別評価については、効果的な活用方法やアプリについての研究が今後も必要である。 ◆目標・自立活動に関する専門性を向上させるための研修を継続する。 【目標】 ①自立活動に関する基礎的な理解と、教科指導との関連について理解を深める。 ・全児童生徒の自立活動の目標について評価、見直しをする。 ②肢体不自由教育に関する専門性の向上を図る。	①自立活動に関する基礎的な理解と、教科指導との関連について理解を深める。 ・1学期に新任担任で指導内容の確認・見直しを行う。 ・単元計画に、自立活動の配慮事項を取り、教科との関連性について表記して、指導・充実につなげる。 ・目標設定シートを活用して、個々の目標について学級で深く指導の充実につなげる。 ②肢体不自由教育に関する専門性の向上を図る。 ・指導支援ガイドブック2等を活用する。 ・食事指導、身体の動きの研修については、外部の専門家や隣接する施設の職員を招き研修を行い、指導内容の充実を図り、本校教員の専門性の向上につなげる。	①年度初めに研究部が中心となり、自立活動の研修を行い、指導内容の確認・見直しを行った。 ②「指導・支援ガイドブック」について校内研修で説明し、必要に応じて活用していく。その他、2学期以降に予定している外部専門家を活用した研修を随時実施し、本校教員の専門性の向上につなげる。 ③身体の不自由教育に関する専門性の向上を図る。 ④身体の不自由教育に関する専門性の向上を図る。	①今年度も引き続き教科と自立活動との関連性や指導内容の確認・見直しを行い、理解を深める。 ②身体の不自由教育に関する専門性の向上を図る。 ③今年度教育課程研究集会の担当として、今年度教育課程研究集会に向けて土佐希向上委員会を実施した。研究部を中心に企画・運営や協議内容等について検討を行った。3校カリマネ委員会では、十分な提案ができていない部分もあつた。 ④単元計画について、4月当初から研修を行い、毎月単元計画作成時間と1回、学部での読み合わせを1回の単元計画作成に向けての研修を行う予定であったが、6月のみ実施となり十分な時間確保ができなかった。	①今後引き続き教科と自立活動との関連性や指導内容の確認・見直しを行い、理解を深める。 ②身体の不自由教育に関する専門性の向上を図る。 ③今年度教育課程研究集会の担当として、今年度教育課程研究集会に向けて土佐希向上委員会を実施した。研究部を中心に企画・運営や協議内容等について検討を行った。3校カリマネ委員会にて、今後の検討事項を共有し、次年度の担当に引き継ぐ。	①目標設定シートの活用について、1学期に研修を行った。単元計画案に自立活動との関連項目を設けたことで、教科との関連性について理解を深めることができた。 ②外部専門家を招き、児童生徒の支援や専門性の向上を図ることができた。 ■自立活動の指導の充実 【回答数 19名】 ・指導目標、指導内容の明確化 ①78.6% ②14.3% ③7.1% ④0.0% ・外部専門家を活用した指導の充実 ①71.4% ②14.3% ③0.0% ④14.3%	■自立活動の指導の充実 【回答数 14名】 ・指導目標、指導内容の明確化 ①78.6% ②14.3% ③7.1% ④0.0% ・外部専門家を活用した指導の充実 ①71.4% ②14.3% ③0.0% ④14.3%	○1段階を目指す児童生徒に即して、自立活動の関連性は密接なものがあるため、次年度も引き続き自立活動が教科の後の授業であることを意識した授業実践を行う。 ○外部専門家を活用した指導の充実 ①71.4% ②14.3% ③0.0% ④14.3%
2 専門性の向上	2 ① ICT活用	児童生徒の目標達成のための手立てとしてICT機器の活用を推進。 ◆活用頻度の差がある。 ◆活用頻度の差がある。 【目標】 ・授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。 (参考)第3期高知教育振興基本計画(令和4年度高知特別支援学校目標) 高知教育委員会 ◆児童生徒の個別の指導計画等へのICT活用を明記 100% ◆全ての教員が授業においてICTを活用(毎日) 100%	①授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。 ②校内にあるスイッチ類等の機器を全職員が把握し、授業で活用できるようにする。 ③GIGAスクールサポーターの協力を得ながら、chromebookの効果的な活用方法やアプリについての研究を今後も行う。	①学習評価全般において、児童生徒の実態及び特性に合わせてICT機器のアプリを活用するなど効果的かつ有効的に活用している。 ①VUCA等を活用し、児童生徒の主体的な活動を促せるよう、引き続き研修を行う。 ②GIGAスクールサポーターの協力をめとICT研修を実施し、chromebookのmeetやclassroomなど、共有して使えるアプリの基礎・基本の習得を目指し、ICT機器への苦手意識を軽減する。	①今後iPadやchromebookを活用し、有効的なアプリを探索するなど効果的な活用を目指す。 ②VUCA等を活用し、児童生徒の主体的な活動を促せるよう、引き続き研修を行う。 ③GIGAスクールサポーターの協力をめとICT研修を実施し、chromebookのmeetやclassroomなど、共有して使えるアプリの基礎・基本の習得を目指し、ICT機器への苦手意識を軽減する。	①②児童生徒の実態に合わせてiPad、chromebook、VOCA等、ICTを取り入れた学習活動を実施し、ICTを活用する場面が増えている。また、リモート会議や学習支援、Jamboard等での研修などICT機器の活用率は上がっている。 ◆個別の指導計画へのICT活用を明記⇒100% ◆全ての教員が授業においてICTを活用⇒100% 【ICT活用推進 【回答数 19名】 ①5.3% ②73.7% ③15.8% ④5.3%	ICT活用率 【回答数 14名】 ①57.1% ②21.4% ③0.0% ④21.4%	○ICTの活用率は上がった。 ○ICTに対する苦手意識の払拭や活用方法の拡充も課題である。 ○児童生徒の興味を引き出す教材やアプリの活用方法について研究を継続して行う。 ○ICT機器の活用方法についての研修を行う。	
	2 ② ICT活用	児童生徒の目標達成のための手立てとしてICT機器の活用を推進。 ◆活用頻度の差がある。 ◆活用頻度の差がある。 【目標】 ・授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。 (参考)第3期高知教育振興基本計画(令和4年度高知特別支援学校目標) 高知教育委員会 ◆児童生徒の個別の指導計画等へのICT活用を明記 100% ◆全ての教員が授業においてICTを活用(毎日) 100%	①授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。 ②校内にあるスイッチ類等の機器を全職員が把握し、授業で活用できるようにする。 ③GIGAスクールサポーターの協力を得ながら、chromebookの効果的な活用方法やアプリについての研究を今後も行う。	①学習評価全般において、児童生徒の実態及び特性に合わせてICT機器のアプリを活用するなど効果的かつ有効的に活用している。 ①VUCA等を活用し、児童生徒の主体的な活動を促せるよう、引き続き研修を行う。 ②GIGAスクールサポーターの協力をめとICT研修を実施し、chromebookのmeetやclassroomなど、共有して使えるアプリの基礎・基本の習得を目指し、ICT機器への苦手意識を軽減する。	①今後iPadやchromebookを活用し、有効的なアプリを探索するなど効果的な活用を目指す。 ②VUCA等を活用し、児童生徒の主体的な活動を促せるよう、引き続き研修を行う。 ③GIGAスクールサポーターの協力をめとICT研修を実施し、chromebookのmeetやclassroomなど、共有して使えるアプリの基礎・基本の習得を目指し、ICT機器への苦手意識を軽減する。	①今後iPadやchromebookを活用し、有効的なアプリを探索するなど効果的な活用を目指す。 ②VUCA等を活用し、児童生徒の主体的な活動を促せるよう、引き続き研修を行う。 ③GIGAスクールサポーターの協力をめとICT研修を実施し、chromebookのmeetやclassroomなど、共有して使えるアプリの基礎・基本の習得を目指し、ICT機器への苦手意識を軽減する。	①②児童生徒の実態に合わせてiPad、chromebook、VOCA等、ICTを取り入れた学習活動を実施し、ICTを活用する場面が増えている。また、リモート会議や学習支援、Jamboard等での研修などICT機器の活用率は上がっている。 ◆個別の指導計画へのICT活用を明記⇒100% ◆全ての教員が授業においてICTを活用⇒100% 【ICT活用推進 【回答数 19名】 ①5.3% ②73.7% ③15.8% ④5.3%	ICT活用率 【回答数 14名】 ①57.1% ②21.4% ③0.0% ④21.4%	○ICTの活用率は上がった。 ○ICTに対する苦手意識の払拭や活用方法の拡充も課題である。 ○児童生徒の興味を引き出す教材やアプリの活用方法について研究を継続して行う。 ○ICT機器の活用方法についての研修を行う。
3 働き方改革	子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が発揮できる職場づくりを行う。	【現状・課題】 ・会議のない日を設定し、教材研究・準備の時間確保を行い、授業改善につなげることができた。 ・繁忙期以外の通常の日は、18時30分退勤とし、週に一度のノー残業デーも定着してきた。 ◆教員の会は、効果的に行えた。 ◆教員同士の心のリフレッシュを目的にヨガ教室を行ったが、十分な効果は得られなかった。 【目標】 ①効果的、効率的で計画的な業務により、見通しをもった仕事の仕方に必要な業務の効率化を図る。 ②チームワークのよい教職員集団づくりを進めるとともに、働きやすさ・安心・安全な職場環境を実現する。 ③本校・分校で共同・協働した教育活動や事務的な処理を検討し、業務の効率化を図る。	①効果的、効率的で計画的な業務により、見通しをもった仕事の仕方に必要な業務の効率化を図る。 ・進捗管理シートを活用し、分掌業務の見える化を図り、引継ぎ資料とする。 ・主事会を活用し、学級・学部の経営力を高める。 ・毎週水曜日の「残業学部の実施」週一日の教材研究日を効果的に活用する。 ②チームワークのよい教職員集団づくりを進めるとともに、働きやすさ・安心・安全な職場環境を実現する。 ・人材育成・専門性の向上を目的に、学び合う風土を作る。 ・健康に気を付け、ストレスをためない他人を思いやることのできる人間関係・職場づくりを行う。 ③本校・分校で共同・協働した教育活動や事務的な処理を検討し、業務の効率化を図る。 ・管理職やカリマネ委員会等を通じて本校・分校の取組を共有し、合同でできることや統一できるものについて検討し、効率化を図る。 ・ポッチャ交流会・作品交流会・進路指導等	①会議のない日を設定し、子どもに向き合う時間や自己研鑽ができる時間の確保ができた。 ①学部運営等、主事会を活用して周知を図っている。 ②進捗管理シートを活用し、分掌業務の見える化を図り、引継ぎ資料とする。 ③主事会を活用し、学級・学部の経営力を高める。 ④毎週水曜日の「残業学部の実施」週一日の教材研究日を効果的に活用する。 ⑤SCを講師に招き、人間関係・職場づくりの研修を行った。また、心がなごるコミュニケーションチェックリストの結果では、8割～9割が肯定的な評価であった。 ⑥教育課程研究集会では、3校で協力して実施することができた。 ⑦ポッチャ交流会・作品交流会・進路の会など3校で会議を行い、活動への機運づくりができた。	①引き続き教材研究日と継続し、子どもに向き合う時間及び自己研鑽の時間とする。 ①主事会等有効活用できるよう、事前に計画を立てて実施する。 ①ノー残業デーは、当日の職研でアジェンダをして、退勤を促している。繁忙期を除いて17:30までの退勤は定着している。ノー残業デー以外の退勤時間については、繁忙期を除いて18:30には全員退勤している。 ②SCを講師に招き、人間関係・職場づくりの研修を行った。また、心がなごるコミュニケーションチェックリストの結果では、8割～9割が肯定的な評価であった。 ③教育課程研究集会では、3校で協力して実施することができた。 ④ポッチャ交流会・作品交流会・進路の会など3校で会議を行い、活動への機運づくりができた。 ⑤学びをつなぐ学校づくり計画に基づき、3校をつなぐ組織をもとにポッチャ交流会や作品交流会などを実施し、文化・芸術・スポーツの振興を図る。	①引き続き教材研究日と継続し、子どもに向き合う時間及び自己研鑽の時間とする。 ①主事会等有効活用できるよう、事前に計画を立てて実施する。 ①ノー残業デーは、当日の職研でアジェンダをして、退勤を促している。繁忙期を除いて17:30までの退勤は定着している。ノー残業デー以外の退勤時間については、繁忙期を除いて18:30には全員退勤している。 ②SCを講師に招き、人間関係・職場づくりの研修を行った。また、心がなごるコミュニケーションチェックリストの結果では、8割～9割が肯定的な評価であった。 ③引き続き管理職や3校カリマネ委員会にて、情報共有を行いながら、業務の効率化を図る。 ④学びをつなぐ学校づくり計画に基づき、3校をつなぐ組織をもとにポッチャ交流会や作品交流会などを実施し、文化・芸術・スポーツの振興を図る。	①業務遂行について、PCを使った会議等資料のペーパーレス化を図ることで効率化を図る。 ①ノー残業デーや夕方の退勤時刻について、職員朝礼等でアジェンダを設定して、教員が業務を計画的に実施し、繁忙期を除いて、時間内の退勤が定着している。 ②職場環境についても、ストレスチェックアンケートや校内アンケートの結果から鑑み、全般的には良好であると考えられるが、個々の意見の中には不安要素もあるため、引き続き取り組む。業務の効率化を図る。 ③若草3校で協力して文・芸・書の振興や進路指導、教育課程の充実に向けて取り組むことができた。 ■働き方改革 【回答数 19名】 ①15.8% ②57.9% ③21.1% ④5.3%	○次年度も引き続き教材研究日を設定し、子どもに向き合う時間や自己研鑽できる時間を確保する。 ○会議の精選と業務内容の見直しを行い、分掌業務等の見える化を図る。 ○学部間及び分掌間の連携をより一層深め、業務の標準化を行う。 ○3校合同での取組を継続し、児童生徒へ還元できる組織作りを行う。	